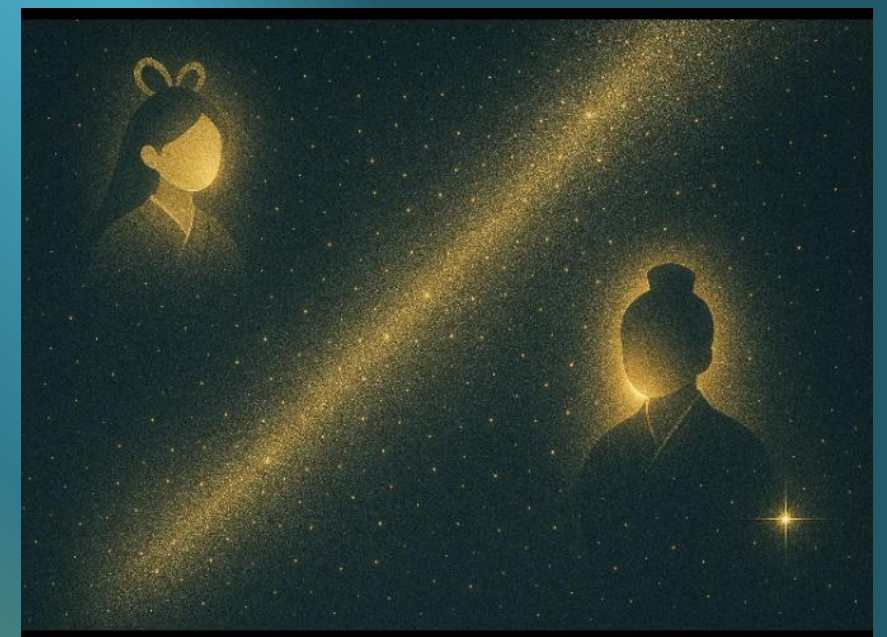


気になったから 勝手に調べたブログ

7月のお題「七夕」



お疲れ様です。管理課の村田です。

今回は、「七夕」に登場する「織姫と彦星」が、なぜ年に一度しか会えないのか？を、勝手に調べてみました。「そんなの知ってるよ～」という方も、よければ“知らないふり”でお付き合いください。

さて、天の神様である「天帝」には、「織姫」という娘がいました。織姫は、神様たちの衣を作るために、毎日せっせと機織りに励む働き者。その姿を見て天帝は、「人生一度きり、恋愛や結婚の幸せも経験させてあげたい」と思い、毎日牛の世話を一生懸命していた青年「彦星」と引き合わせます。

二人は出会ってすぐに恋に落ち、めでたく結婚。

.....が、それ以来、あれほど真面目だった二人は恋に夢中になりすぎて、まったく仕事をしなくなってしまいました。それを知った天帝は激怒。ふたりを天の川の兩岸に引き離してしまいます。しかし今度は、会えない悲しみから二人とも仕事が手につかなくなってしまいました。それを見た天帝は「これはまずい.....」と、年に一度、7月7日だけ会うことを許したというのが、この物語の由来です。

正直なところ、私はシェイクスピアの『ロミオとジュリエット』のように、運命に翻弄されながらも純愛を貫くロマンチックな話だと思っていました。

.....が、真相を知ってみると、「これって、みんな自業自得じゃない？」と、思わず苦笑いしてしまいました（笑）。とはいえ、年に一度の再会を許した天帝の“心の広さ”には、どこか愛を感じます。

もしかすると、この物語の“真のヒロイン”は「天帝」なのかもしれませんね(^_^;

まあ、それはさておき。

七夕の裏テーマは、「当たり前は当たり前じゃない」ということなのかもしれません。

プロサポ通信の頃は記事の執筆だけに専念できていましたが、今は自分で始めた分、「ページの構成」「文章の整理」「テーマに合った画像の選定」などの作業に大変さを実感しています。パソコンの操作に慣れれば、もっと自身と余裕が生れるのかな？

次回は
「台風で風力発電？」
の予定